

■平成25年度施策評価の結果概要一覧(政策の基本目標05)

・前期計画最終目標[H27]の達成見込み:A 順調 B 概ね順調 C やや遅れている D 遅れている

・指標の※印は総合計画(基本計画)に記載していないもの。★印は後期計画反映として目標未設定のもの。

#	政策体系	成果の定義	指標名	指標の説明	基準年度実績[H20]	H24実績	H25実績	前期計画最終目標[H27]	最終目標達成率	指標では読み取れない成果	最終見込[H27]	成果の達成状況の要因		
												外部要因	内部要因	
05誰もが快適に暮らし続けられるまちづくり(政策統括監:都市整備部長)														
05-01快適な居住環境の形成														
05-01-01快適な住環境の整備														
1		老朽化住宅の適切な維持管理及び計画的な施設整備を進め住環境が整備されている。	① 市の公共施設バリアフリー設置割合(入口用スロープ、身障者用トイレ、身障者用駐車スペースのいずれかを設置)	入口用スロープ、身障者用トイレ、身障者用駐車スペースのいずれかを設置している施設の割合	67.9%	73.6%	77.2%	90.0%	85.8%			B	①不況等により低廉な住まいを求める入居希望者が増えている。 ②地域ニーズを取り入れた道づくり事業が順調に活用されている。	①不動産売買に精通した職員がいない。 ②老朽化した住宅の維持管理に係る明確な方針、計画が無い。 ③バリアフリー等の人にやさしい安心安全なまちづくりを展開している。
		② 歩道整備率	整備延長÷舗装市道延長		13.65%	14.10%	14.14%	14.14%	100.0%					
		③ みちづくり支援事業数	事業実績数		0	3カ所(累計6カ所)	3カ所(累計9カ所)	15カ所	60.0%					
		④ ★ 市内の道路環境が歩きやすいと思う人の割合	市民意識調査による[隔年実施]		—	56.5%	—	(後期計画反映)	—					
		⑤ ※ 市営住宅入居率	市営住宅入居率管理戸数 1,061戸		89.8%	90.1%	86.7%	90.0%	96.3%					
		⑥ ※ 住宅団地分譲率	分譲区画数160区画(平成23年度末、さくら通り(区画数20)加算。H24年度は160区画で算出。)		22.86%	35.94%	40.00%	41.1%	97.3%					
		⑦ ※ 市営住宅水洗化率	市営住宅入居率管理戸数 1,061戸		62.8%	67.58%	71.25%	73.6%	96.8%					
		⑧ 快適な居住環境の形成に対する市民満足度	市民意識調査(6段階評価)		3.865[H24]	3.865	—	増加	—					
		⑨ 耐震診断実施数[累計]	耐震診断実施戸数		170	227	227	305	43.7%					
		⑩ 耐震改修実施数[累計]	耐震改修実施戸数(生活再建住宅支援事業耐震改修含)		3	15	17	37	41.2%					

■平成25年度施策評価の結果概要一覧(政策の基本目標05)

#	政策体系	成果の定義	指標名	指標の説明	基準年度実績[H20]	H24実績	H25実績	前期計画最終目標[H27]	最終目標達成率	指標では読み取れない成果	最終見込[H27]	成果の達成状況の要因		
												外部要因	内部要因	
05-01-02美しい景観を守り、創り、育てる														
2		市民一人ひとりがみんなで力をあわせて守り、創り、育て、次の世代へと引き継いでいく景観づくりを進めている。	①	養成した景観人の数[累計]	景観学習受講者数	0人	154人	178人	200人	89.0%	北上市景観賞の創設により、地域の特性を生かした景観形成が推進された。	A	①景観への関心と地域づくりのツールとしての意識が根付きつつある。	①ミッションの方向性と組織上の位置づけがしっかり整っている。
			②	※ 景観学習に参加した児童・生徒数[累計]	実施実績による	0 [H21.3]	438人	670人	840人	79.8%				
			③	きたかみ景観資産の認定数[累計]	毎年度行う認定数から	0 [H21.3]	91	101	100	101.0%				
			④	届け出される行為が基準に合致している割合	毎年度の届出数	22年度から実施	100%	100%	100%	100%				
			⑤	★ 将来残したい魅力ある景観があると思う人の割合	市民意識調査による[隔年実施]	—	77.5%	—	(後期計画反映)	—				
05-01-03緑のまちづくりの推進														
3		花いっぱい運動を推進することで環境美化意識の向上や地域コミュニティの活性化が図られ、潤いのある緑豊かなまちが形成されていること。 市民に潤いと安らぎを与える場として公園緑地が確保され、安心・安全に利用できるよう管理されている状態であること。	①	※ 花いっぱいコンクール参加団体数	コンクールに参加を希望する団体・個人の実数	70団体	73団体	66団体	70団体	[94.3%]		B	①地域、学校、職場等において花壇づくりによる環境美化活動が定着している。 ②少子化による子供会の減少や地域の高齢化により、花壇づくりをやめる団体が毎年出ている。 ③花いっぱいコンクールで入賞することを目標にして運動に取り組んでいる地域、職場、学校及び個人が相当数いる。 ④バリアフリー等の公園利用者のニーズに対し、公園設備が老朽化し、対応出来ていない。	①花いっぱい運動推進協議会の活動を支援するため補助金を交付している。 ②花いっぱい運動推進協議会の事務局を市が担っている。 ③平成25年度は、新規公園整備・供用開始が行われなかった。
			②	※ 花苗配布団体数	花苗の配布を希望する団体の実数	228団体	227団体	220団体	250団体	△36.4%				
			③	市民一人当たりの都市公園面積	都市公園の市民1人当たりの面積(都市公園面積÷北上市の人口)(平成17年度-12.9㎡)	13.12㎡	13.31㎡	13.34㎡	15.51㎡	9.2%				
			④	緑地の確保目標量	北上市緑の基本計画 緑地現況調査(平成13年度-35,663㎡)	35,667ha	35,681ha	35,681ha	35,700ha	[99.9%]				

■平成25年度施策評価の結果概要一覧(政策の基本目標05)

#	政策体系	成果の定義	指標名	指標の説明	基準年度実績[H20]	H24実績	H25実績	前期計画最終目標[H27]	最終目標達成率	指標では読み取れない成果	最終見込[H27]	成果の達成状況の要因	
												外部要因	内部要因
05-02暮らしを支える上下水道の充実													
4		05-02-01安全・安心な給水の確保<<対象外>>											
05-02-02適正な汚水処理の推進													
5		公共用水域の保全と公衆衛生の向上が図られ、市民が良好な環境の中で快適な日々を送っている。	①	汚水処理水洗化率 (水洗化人口÷処理区域内人口)×100	80.2%	87.8%	88.2%	86.9%	達成		B	①住宅の増改築等の増加。 ②市民の公衆衛生向上に対する関心が高まっている。	①下水道未接続世帯の解消のため、非常勤2名を雇用し、個別訪問などを行い、下水道の普及促進を行っている。 ②合併処理浄化槽の設置補助金の補助率が他市に比べ、高くなっている。
	②		汚水処理普及率 (処理区域内人口÷住民登録人口)×100	73.9%	78.9%	79.3%	77.1%	達成					
	③		合併浄化槽普及率 (集合処理計画区域外の合併浄化槽処理人口÷住民登録人口)×100	5.3%	6.8%	6.6%	8.0%	82.5%					
	④		※ 汚水処理接続率(世帯) (水洗化世帯数÷住民登録世帯数)×100	78.5%	87.4%	86.2%	91.4%	94.3%					
	⑤		河川・ダムの水質に係る環境基準適合率 (類型指定河川の環境基準値遵守率(県の定期測定データから))	95%	91.5%	県データ未公表につき未記入	100%	—					
05-03道路・情報ネットワークの充実													
05-03-01道路交通ネットワークの充実													
6		他の市町村、主要な施設と施設、集落と集落、集落と施設等を結ぶ道路網の整備並びに適切な維持管理により交通渋滞が緩和し、交通事故防止、緊急車両の通行等の向上を図られ、安心、安全な市民生活の環境が整備されている状態。	①	市道改良率 市道改良済延長/市道実延長 (改良済とは、道路構造令の規格に適合するものをいう。)	56.9%	58.1%	58.2%	59.4%	98.1%		B	①幹線道路、生活道路の整備に対する市民の関心は高い。 ②道路整備に関する地域要望の路線数は非常に多い。	①道路の整備は、総合計画どおり順調に推移している。 ②地域要望の数に比較して、投入コストが少ない。
	②		市道舗装率 舗装済延長/市道実延長	51.4%	52.4%	52.6%	53.6%	98.1%					

■平成25年度施策評価の結果概要一覧(政策の基本目標05)

#	政策体系	成果の定義	指標名	指標の説明	基準年度実績[H20]	H24実績	H25実績	前期計画最終目標[H27]	最終目標達成率	指標では読み取れない成果	最終見込[H27]	成果の達成状況の要因		
												外部要因	内部要因	
05-03-02道路環境の整備														
7		補修が必要な道路・橋梁等が修繕・改善され、安全で円滑な道路交通が確保されている。また、除排雪、路肩除草、街路樹剪定が適切に行われ、冬期間の交通機能の確保と快適な道路環境が維持されている。	① 道路管理に関する苦情等の世帯数に対する件数割合 ② 道路除雪に関する苦情等の世帯数に対する件数割合 ③ ※ 橋梁長寿命化修繕について目標年度までの計画修繕橋梁数に対する実施済橋梁数進捗率 ④ ※ 幹線道路維持補修について目標年度までの計画修繕延長に対する実施済延長進捗率 ⑤ ※ 道路管理瑕疵による事故件数	満足世帯数の把握が困難であるため苦情件数をもって指標値を算出する。ただし道路管理者では対応可能なものは除く。  満足世帯数の把握が困難であるため苦情件数をもって指標値を算出する。ただし道路管理者では対応可能なものは除く。  修繕実施累加橋梁数/目標年度(H27)までの計画修繕橋梁数  修繕実施累加延長/目標年度(H27)までの計画修繕延長  舗装穴、側溝蓋の欠落、転落防止柵の欠落等危険箇所の補修が遅れたことにより発生した事故件数	1.3%  1.50% 16.7% [H25年度]  18.4% [H25年度]  0件	1.13%  2.23% —  —  5件	1.26% (448件)  1.31% (466件) 16.7% (1橋)  18.4% (2.4km)  11件	1.0%  1.2% 100.0% (6橋/6橋)  100.0% (12.8km/12.8km)  0件	未達成  未達成 16.7%  18.4%  0.0%			C	①道路舗装、側溝の経年劣化が進行していることに加え、水道、下水道、農集排工事による掘り返しの増加と東日本大震災による沈下などにより損傷箇所が多くなっており、苦情件数の割合が高い。また、街路樹、路肩除草に対する要望・苦情件数も多い。  ②道路除雪に対する要望として、従来からの早期除雪及び置雪除去だけでなく、わだち・圧雪・シャーベット解消、吹溜り除去、凍結路面对策、排雪など市民ニーズが多様化している。  ③地域除雪の制度化により、市民の細かなニーズに対応できるようになってきている。	①道路舗装等の修繕・補修に要する予算は、財源を考慮し少額ずつ増額してきたが、老朽化に対応した抜本的修繕が進んでいない。また、破損箇所早期把握のためのパトロール業務人員、パトロール業務委託とも対応できていない。  ②H24に出動基準や除排雪体制を大幅に見直したが、未だ苦情件数は、高いレベルにある。  ③除雪システムの改善により、きめ細かで効率的な体制づくりを行った。
05-03-03情報格差の解消														
8		市内全域において、市民の誰もが手軽に情報技術の利便性を享受できる環境となること。	① 高度情報サービス整備率(モバイル) ② 高度情報サービス整備率(BBゼロ地域)	携帯電話のサービスエリア  NTT、CATVからの情報による推定	99.9%  98.6%	99.9%  99.78%	99.9%  99.78%	100.0%  100.0%	99.9%  99.8%			A	①携帯電話通話エリア、高速ネットワーク網など情報通信網が整備され、新たな情報通信サービスが提供されている。  ②市内地区の地上デジタルテレビ放送難視聴対策として、放送事業者による送信中継所設置に対し補助金を支出した。	①ICT交付金等を活用し、ブロードバンドゼロ地域解消事業を行った。  ②市内地区の地上デジタルテレビ放送難視聴対策として、放送事業者による送信中継所設置に対し補助金を支出した。



■平成25年度施策評価の結果概要一覧(政策の基本目標05)

#	政策体系	成果の定義	指標名	指標の説明	基準年度実績[H20]	H24実績	H25実績	前期計画最終目標[H27]	最終目標達成率	指標では読み取れない成果	最終見込[H27]	成果の達成状況の要因	
												外部要因	内部要因
05-03-04情報通信技術の活用													
9		市民に活用してもらう電子行政サービスが充実し、利便性が向上すること。	① ※ 行政手続きのオンライン化推進状況	利用件数/総件数	1% (2,859件/498,832件)	30.7% (37,385件/121,780件)	30.7% (38,109件/124,146件)	45% (60,750件/135,000件)	68.2%	現時点で考えるオンラインサービスを提供しており、その利用者は固定化していることから利用率は頭打ちとなっている。	B	①市民ニーズ・企業ニーズ等は多種多様かつ変動性が大きい。	①オンラインシステム等は、導入後に仕様変更を行うことは少ないため、使い易さの改善などについて外部ニーズとの差が生じやすい。
05-04みんなで支える公共交通体系の構築													
05-04-01地域の実情に応じた公共交通体系の構築<<H26外部評価対象施策>>													
10		行政、交通事業者、地域住民等の協働により地域の実情に応じた公共交通体系の構築が図られ、市民の足として重要な役割を果たしているバス路線の維持と路線バスの空白地帯の交通が確保されていること。	① ※ 地域住民を支える支線交通の路線数	地域が主体となって運行している路線数	0	6	6	6	達成	路線バスの縮小や廃止が進められていることにより、路線バスの空白地帯が増え、支線交通が必要な地域が増えた。	B	①自治組織が事業実施主体となったことにより、支線交通(乗合タクシー)の仕組みが円滑に構築できた。	①地域住民を支える支線交通(乗合タクシー)については、支線交通運行事業費補助金の助成により地域での運営が維持されている。
			② 地区の環境で、公共交通が利用しやすいと思う市民の割合	市民意識調査結果(2年に1回)	43.2%	49.1%	—	70.0%	—				
05-04-02公共交通の利用促進													
11		市民、事業者、行政など多様な主体の協働により、地域交通が生まれ、公共交通の継続的な利用が図られていること。	① 北上駅1日あたり利用者数	JR集計による	3,730人 [H19年度]	3,557人 [H23年度]	3,747人 [H24年度]	3,700人	達成	路線バスの廃止に伴い生じた公共交通の空白地域は、乗合タクシー等の支線交通により補完し、地域の交通を確保している。そのため、従来の路線バス利用者が乗合タクシー等を利用することにより、支線交通と路線バス利用者の総数が変わらなくても、路線バス利用者としては減になっている。	B	①県立高校の郊外移転等により、北上駅における通学等の利用が減少している。が、立地企業の増加に伴い、北上駅の新幹線利用者数が増加しているため、北上駅の利用者数は増加している。	①公共交通の果たす役割等庁内議論、市民周知が不足している。
			② 路線バス1日あたり利用者数	岩手県交通集計による	2,665人 [H19年度]	1,863人 [H23年度]	1,821人 [H24年度]	2,000人	[91.1%]				
05-05総合的・計画的な土地利用													
05-05-01質的向上を目指した土地利用の推進													
12		市街地の無秩序な拡大を抑制し、自然と都市が調和したまちが形成される。都市地域と農村地域の機能分担や交流連携のもと、地域資源の活用により生活機能が維持・強化されている。	① 市の土地利用制限について「現状程度の制限で十分」と考える人の割合	市民意識調査で把握する。	52.0%	74.0	—	75.0%	—	路線バスの廃止に伴い生じた公共交通の空白地域は、乗合タクシー等の支線交通により補完し、地域の交通を確保している。そのため、従来の路線バス利用者が乗合タクシー等を利用することにより、支線交通と路線バス利用者の総数が変わらなくても、路線バス利用者としては減になっている。	B	①人口減少と少子高齢化により、新たな都市的な土地需要が低下してきている。	①関係部課との連携による情報共有をしている。
			② 農業振興地域の面積(農用地区域/農振白地区)	農振台帳の積上げによる。	8,301ha 14,603ha	8,142ha 14,713ha	8,142ha 14,713ha	8,300ha 14,600ha	[98.1%] [100.8%]				
			③ これからも北上市に住み続けたいと思う人の割合	市民意識調査で把握する。	87.2%	89.6%	—	90.0%	—				
			④ ★ 居住地区から中心市街地や病院などの公共施設に行きやすいと思う割合	市民意識調査で把握する。	—	62.9%	—	(後期計画反映)	—				